

令和3年度 第2回防府市高齢者保健福祉推進会議 会議録

日 時 令和3年10月28日(木)午後2時～3時30分

場 所 防府市文化福祉会館3階4号大会議室

1 議 事

○ 報告事項

(1) 地域包括支援センターの運営状況について

資料1に沿って地域包括支援センターの運営状況について説明した。  
事例紹介はパワーポイントを用いて説明した。

A委員 コロナ禍において、地域包括支援センター（以下：包括）の活動で  
気をつけていることがあれば教えてもらいたい。

事務局 コロナ禍ということで、高齢者も不安に感じているため、感染状況  
が多かった時には、緊急の訪問以外は自粛をし、訪問が必要な高齢  
者には、感染予防対策をとった上で、なるべく短時間で対応してい  
た。

B委員 事例紹介の事例は、市・包括が自治会長や民生委員と連携がとれて  
いたが、全ての地区で連携がとれているとは考えられない。今後、  
どのようにしたら連携がとれるのかアドバイスがあったら教えて  
もらいたい。

事務局 地域によって見守り体制に若干違いがあると思うが、行政や包括で  
は把握できていないところを自治会や民生委員に支えてもらって  
いる。

包括に相談があったケースに関しては、民生委員や自治会長に連絡  
をし、連携をとっていくことを継続していこうと思う。

また、包括も自治会長や民生委員が集まる機会に出向き、包括の周  
知をして、連携を図っていきたい。

C委員 高齢者虐待会議が増えている理由として会議が位置づけられたか  
らと説明があったが、虐待相談が増えたわけではないのかももう少し  
詳しく聞きたい。

- 事務局 虐待相談件数が増えているわけではない。  
今まで位置づけてこなかったコア会議（虐待かどうか判定する会議）や包括・ケアマネジャーを交えての方針会議をきちんと位置づけたことで、虐待会議の件数が増えたと考えている。
- D委員 自立支援もとても重要なことだが、もう1本の柱として、最後の看取りや本人の意思決定をサポートしていくシステムを作っていくことが必要と思っている。しかし、最近あまり進んでいないような気がしているので、今後、どのように進めていくのか、検討されているのかを教えてください。
- 事務局 市としては短期集中予防型サービス、自立支援をPRしているが、看取りや認知症の方の支援体制についても力を入れていかなければいけないと思っている。市は数年前にエンディングノートを作成したが、部数が限られていたため、配布が十分にできていないと思っている。必要があれば、今後追加作成についても検討していきたい。  
また、防府市医療・介護連携推進協議会でも看取りについては検討をしていきたいと思っている。
- C委員 ケアマネジャーとして自立支援のところになかなか関われない状況である。看取りについては、幅広い年代にも関係してくることなので、難しいけどやっていかないといけないと思う。協力してやっていきたい。

(2) 認知症の取組について

資料2とチラシに沿って防府市における認知症高齢者の現状と取組について説明した。

- B委員 認知症は同居家族ではわかりにくく、自分の母は隣近所の方から指摘を受け病院に連れて行った結果、認知症と診断された。認知症は、どういう形で認定される方が多いのか教えてください。  
認知症だということはなかなか言えないので、定期的に診察を受け

- することも必要だが、人権があるので、なかなか病院に連れていくことは難しい。市としてどのように考えているのか教えてもらいたい。
- 事務局 認知症は初期段階であれば、周囲の方も気づきにくく、最初に気づくのが、同居家族ではなく、地域の人や他の人であるかもしれない。今日配布した認知症ガイドブックの中に認知症を疑うサインが載っているので、参考にしていただきたい。認知症の中には治療により症状が改善するものもあり、認知症サポーター養成講座等で、早期に変化に気づいて、受診や支援に繋げることが大切だと伝えている。専門医の受診についてのハードルが高ければ、まずはかかりつけ医に相談したり、検診を通して受診をすすめることもよいと思う。
- E 委員 民生委員として一番困っているのは、ひとり暮らしの高齢者で家の外にも出られず、介護認定も受けていない人が認知症になった時である。
- 隣近所の方に、何かあったら連絡してくれるようお願いはしているが、初期の認知症はわかりにくい。
- 何とかしないといけないと思っているが、認知症のサインの中には、老化による現象と区別がつきにくいものもあるので対応に苦慮している。
- 事務局 ひとり暮らしで家に閉じこもりの認知症の発見はなかなか難しいと感じている。民生委員・自治会長だけでなく、医療機関や民間のいろいろなところが関わっていくなかで認知症は発見できていくと思っている。
- 隣近所に見守りをお願いしていることはとてもいい方法なので、地域で見守っていき、できるだけ早く支援に繋げていく取組が必要だと思う。
- F 委員 資料2の防府市みまもり SOS ネットワークの新規登録者数が、年度ごとに足した数が令和3年3月末現在の登録者数より多いのはどうしてだろうか。
- 事務局 令和3年3月末現在の登録者数163人は、新規登録者を年度ごとに

足した数から施設入所者や亡くなられた方を削除した数である。

G委員 認知症カフェの委託を受けて運営しているが、本当に参加してほしい方にどのような手法をとれば周知できるのかが課題と考えている。市として何かアドバイスがあれば方策を聞きたい。

事務局 認知症カフェのチラシは医療機関に配布している。今後も高齢者がよく行く場所へ認知症カフェのチラシを配布し、啓発を行っていきたい。

たくさんの人に参加していただけるよう送迎を実施している認知症カフェもあるが、行くための交通手段がないことが課題となっているため、いろいろ意見をもらいながら今後検討していきたい。

(3) 地域密着型サービス事業所の指定更新について

資料3に沿って、地域密着型サービス事業所の指定更新について説明した。

意見なし

(4) 地域密着型サービス事業所の施設整備について

資料4に沿って、地域密着型サービス事業所の施設整備について説明した。

意見なし

○ その他

次回の防府市高齢者保健福祉推進会議は、2月17日(木)午後2時から防府文化福祉会館3階4号大会議室で開催予定。